

令和8年3月2日

保護者様

長与町立長与南小学校
校長 平村 美恵子

令和7年度 学校評価の公表について（お知らせ）

向春の候 皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本校の教育活動に対しまして御理解と御支援をいただき、感謝申し上げます。

さて、児童の学校生活をより豊かで充実したものにするために、学校の教育活動の改善を目的とした学校評価を本年度も実施しました。

つきましては、本年度の学校評価として下記のとおり公表いたします。

記

1 評価の実施状況

(1) 自己評価

①児童生徒による評価の実施期日・対象学年・人数
令和7年12月1日～8日・全学年・643名

②保護者等による評価の実施期日・回収率（回収数／対象数）
令和7年12月1日～8日・90%（576／643）

③教職員による評価の実施期日
令和7年12月9日～16日

(2) 学校関係者評価

学校関係者による評価の期日・参加者・人数
令和8年1月16日～30日・学校運営協議会委員・7名

2 評価結果の公表状況

(1) 期日 令和8年3月2日

(2) 方法 保護者への文書配信 学校ホームページへの掲載

(3) 内容 3 公表文書の通り

3 公表文書

(1) 長与町学校評価（共通の評価項目）報告書 1部

(2) 「自己評価」関係文書 各1部

(3) 「学校関係者評価」関係文書 1部

(4) いじめ問題に関する評価の実施状況 1部

(1) 令和7年度 長与町学校評価(共通の評価項目)報告書

長与町立(長与南小)学校

I 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容	評価	分析及び改善策
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	1 豊かな心の育成 ① いじめ、不登校への適切な対応(必須) ② あいさつと言葉遣い	3	<p>○児童の小さな変化に気づく日々の関わりと、なかよしアンケートの活用により、いじめの早期発見や早期対応につながった。児童アンケート「先生は相談にのってくれる」は3.80、保護者アンケート「いじめのない学校づくり」は3.38と、高い評価を得た。今後も全職員で児童の様子を丁寧に見守り、未然防止に努めていく。不登校への対応については、担任と関係職員が連携し、保護者と協力しながら粘り強く支援を続けている。今後も関係機関と連携し、改善に向けた取り組みを進めていく。</p> <p>○児童・保護者・教職員へのアンケート項目で、あいさつに関するものが3.5に届いていない。3学期は重点項目として全校で明るいあいさつの推進に取り組んでいる。あいさつの改善について家庭・地域と連携しながら意識を高めていきたいと考えている。言葉遣いは、「ふわふわ言葉(やさしい言葉)」を意識させ、相手を思いやる表現の大切さを指導している。今後も日常の中で丁寧な言葉のやりとりが根づくよう指導していく。</p>
	2 基礎学力の充実 ① 教科指導の充実 ② 基礎基本の定着	3	<p>○日々の授業改善の成果が表れ、教科指導に関する評価は児童3.60、保護者3.60、教職員3.47と、いずれも高い数値であった。全国・県の学力調査では、全ての領域で全国・県の平均正答率を上回った。今後も児童が主体的に学び、わかるできる喜びを味わわせる授業づくりを行っていく。</p> <p>○ながよ検定の全校合格率は97.6%で基礎基本の定着は図られている。今後も未定着の漢字や計算の習得ができるよう指導をしていく。また、児童アンケート「わからないときは質問している」は、昨年度3.20から今年度3.42と向上した。質問しやすい環境づくりや個別指導の充実について児童が実感している表れと考えられる。今後も児童の学びに寄り添い自分の考えを表現できる児童の育成に力を入れていく。</p>
	3 健康安全教育の推進 ① 「五ザル」の取組の充実 ② 体力向上	3	<p>○家庭との連携を深めながら、毎月5日を「五ザルの日」として定着させ、「メディアは短く、会話は長く」のスローガンのもと、メディアコントロールに重点的に取り組んだ。提出率は100%を目指したが、5日が休日のおときは提出率が下がった。児童・保護者・教職員の評価は3.5前後で、取組の成果がうかがえる。今後も本校の特色ある取組として継続していく。</p> <p>○外遊びが好きな児童が多く、寒い日でも朝の時間や昼休みに進んで運動場へ出て運動する児童が見られた。今年度は体育館改修工事が行われているが、体育授業の見直しや場の工夫などに取り組み、運動量を確保することができた。</p>

<p>4 特別支援教育の充実</p> <p>①一人ひとりのニーズに応じた支援 (必須)</p> <p>②子どもの問題行動に対する組織的な 指導の充実</p>	<p>3</p>	<p>○児童一人一人のニーズに応じた支援を実現するため、指導教諭や特別支援教育コーディネーターを中心に、個別の指導計画に基づいた柔軟な対応を行った。交流学級担任との連携や支援員の配置も適切に行われ、安定した支援体制が整えられた。今後も関係職員が連携し、児童の実態に応じたきめ細かな支援を継続していく。</p> <p>○学校経営方針の合言葉「一人一人を大切に する教育の推進」に基づき、児童理解研修会 やケース会議を通じて情報を共有し、全職員 で支援にあたった。担任だけでは対応が難し いケースには、管理職・主幹教諭・指導教 諭・学年主任が加わり、組織的な対応を行っ た。今後も担任任せにせず、チームで支える 体制づくりをさらに強化していく。</p>
<p>5 国際化への対応</p> <p>① 外国語活動の充実</p> <p>② 国際教育の充実</p>	<p>3</p>	<p>○外国語に親しむ環境づくりとして、1~4年 生は担任とALTが連携して授業を行い、児童 は楽しみながら自然に英語に慣れ親しむこと ができた。5・6年生は外国語専科教員が中心 となり、週2時間の授業をカリキュラムに沿 って計画的に実施した。ALTは1階放送室横 の掲示板上に外国語の掲示物を作成し、日常 的に英語に触れられる環境づくりに貢献した。 今後も児童の興味や関心を引き出し、主体的 に学びに向かう姿を育てるため、魅力ある授 業づくりと国際理解教育の充実を図ってい く。</p>
<p>6 教育環境の整備</p> <p>① 黙々掃除（協働・黙働）によ る美化活動の充実</p> <p>② 安全教育の推進</p>	<p>3</p>	<p>○掃除の該当項目では、児童・教職員ともに 3.57と高い数値が出ており、協働して清掃活 動を行うことができた。しかし、保護者は 3.44とやや低い結果であった。引き続き校舎 内外の環境美化、整備に努めていく。黙働に ついては個人差が見られるため各学級で個別 指導を行い、改善を図っていく。</p> <p>○学期初めには全校集団下校を行い、職員が 下校に付き添ったり、要所で立哨を行ったり して安全な登下校について意識を高めること ができた。不審者対応については、安全教育 の専門家の助言をもとに職員で不審者対応に ついて現場の動きを確認しながらマニュアル の見直しを行い、防犯意識の向上と安全教育 の推進につなげることができた。</p>
<p>7 教職員の資質向上</p> <p>① 指導力の向上（必須）</p> <p>② 校内研修の充実</p>	<p>3</p>	<p>○校内研修では、指導力の向上を目指し国語 科を中心に「学びの習慣化メソッド」の実践 に取り組んだ。学年での学級づくりを基盤と し、児童の実態をふまえた学習指導案を同学 年で協議しながら作成し、主体的に学ぶ児童 の育成に努めた。授業後の研究協議や各学年 の研究授業参観も行い、指導の質を高める工 夫を重ねた。教職員アンケートの校内研修の 項目は、昨年度3.27から今年度3.31と数値 が向上した。また、タブレット端末のAIドリ ルやオクリンクプラスなどICT機器・アプリ を効果的に活用し、個別最適な学びの充実を 図った。今後は教員同士が活用方法を共有し 合う場を設け、校内全体でのスキル向上と授 業改善のさらなる推進を目指す。ICT機器を 活用した協働的な学びの場づくりにも力を入 れていく。</p>

2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

（1）成果

- ①児童が安心して学べる学級・学年・学校づくりを推進することができた。
- ②ICTの活用や質問しやすい授業づくりにより、児童の主体的な学びが促進できた。
- ③児童理解研修会やケース会議を通じて、組織的な支援体制を構築できた。

（2）課題等

- ①挨拶や掃除活動の向上を図るために、家庭・地域との連携を強化していく。
- ②児童の学習への主体性と意欲をさらに高めるために、指導や支援を工夫していく。
- ③いじめの未然防止など児童理解の深化に向けた教職員の共通理解と組織対応力の向上。

3 学校関係者評価

3 学校関係者評価

学校運営協議会委員7名に、児童アンケート結果、保護者アンケート結果、教職員アンケート（自己評価）を説明し、その妥当性について御精査いただいた。また、7名の評価者からご意見をいただくことができた。

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

日々の児童観察や個人面談・アンケートなどを密に取りながら児童一人一人と向き合う取組を通していじめへのアンテナを高くすることでいじめの認知を進めていく。

家庭学習について、授業での学びと家庭での学びがつながるように学校と家庭の連携・情報共有に取り組んでいく。

5 その他

5 その他（特になければ記入不要）

【留意点】

評価は、自己評価をもとに学校関係者評価にも十分配慮し、総合的に判断し記入する。
評価は4段階とし、以下による。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 4 十分達成できている | 3 概ね達成できている |
| 2 どちらかという達成できていない | 4 ほとんど達成できていない |

1 児童アンケート 集計結果

令和7年12月実施

[4 : よくあてはまる 3 : ややあてはまる 2 : あまりあてはまらない 1 : まったくあてはまらない]

番号	評 価 項 目	全学年合計(人)				
		平均点	4	3	2	1
1	学校は楽しい。	3.85	430	158	15	8
2	仲の良い友達がいる。	3.92	572	32	4	3
3	クラスにいじめはない。	3.49	399	133	56	23
4	先生や友だちに元気よくあいさつをしている。	3.48	344	220	41	6
5	そうじをまじめにやっている。	3.57	380	209	15	7
6	授業中は集中して学習に取り組んでいる。	3.60	401	180	26	4
7	わからないときは質問している。	3.42	347	190	59	15
8	家での学習をしっかりとやっている。	3.63	439	126	35	11
9	本をよく読んでいる。	3.23	306	161	121	23
10	体育の時間は、体をうごかすことができている。	3.59	426	137	30	18
11	朝ごはんを食べている。	3.89	567	27	11	6
12	手洗いやうがいなど、病気にならない生活を心がけている。	3.69	452	137	16	6
13	先生の教え方は、わかりやすい。	3.75	481	112	13	5
14	先生はそうだんにのってくれる。	3.80	507	89	13	2
15	先生は悪いことをしたときは、きちんとしかってくれる。	3.85	542	56	3	10

2 保護者アンケート集計結果

長与町立長与南小学校

調査期間		
令和7年12月実施		
アンケート回収率	90%	576人
児童数	643人	

番号	評価項目	平均ポイントと実数(人)				
		平均点	4	3	2	1
1	学校は、学校だよりや学年・学級通信などで、教育目標や子どもの学習・生活の様子を家庭へ知らせている。	3.68	398	158	13	0
2	学校は、PTAや地域、関係団体との連携を図り、協力的である。	3.51	307	246	15	2
3	学校は、子供にわかる授業づくりに努め、学力向上に取り組んでいる。	3.60	350	215	8	0
4	学校はいじめの実態把握や早期発見に努め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	3.38	247	291	26	4
5	学校は、子どもや保護者の連絡、相談に適切に対応している。	3.62	379	177	15	4
6	学校は、校舎内外の環境美化、整備に努めている。	3.44	283	260	27	3
7	学校は、体育の時間などの活動を通して体力づくりに努めている。	3.55	328	231	15	0
8	学校は手洗いなどの衛生に関する指導を行うなど子どもの健康に関する対応に努めている。	3.54	318	247	7	0
9	お子さんは、毎日朝ごはんを食べるなど規則正しい生活を送ることができている。	3.68	406	154	14	0
10	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。	3.44	302	226	40	6
11	お子さんは、進んで家族や地域の方に挨拶している。	3.13	180	305	79	12
12	お子さんは、家庭で学習する習慣が身についている。	3.21	224	262	75	14

3 教職員アンケート 集計結果

令和7年12月実施

【 4 : よくあてはまる 3 : ややあてはまる 2 : あまりあてはまらない 1 : まったくあてはまらない 】

番号	評 価 項 目	教職員合計（人）				
		平均点	4	3	2	1
1	【広報活動の充実】日頃から保護者に学年通信、学級通信等を通して、学校の教育方針が理解されるよう努力を行った。	3.25	15	15	6	0
2	【開かれた学校づくり】家庭との連携や行事、授業参観、ねらいを明らかにした校外学習の実施等を通して、家庭や地域との連絡を密にし、開かれた学校づくりに努めた。	3.54	21	12	2	0
3	【特別支援教育】特別支援学級や通級指導教室へ通う児童、全ての児童の実態の実態や困り感を理解し、指導の改善や充実に努めた。	3.51	26	19	2	0
4	【教育相談】日頃の児童観察や「なかよしアンケート」、家庭からの連絡などを通して児童の実態などを把握し、適切に対応するように努めた。	3.74	28	10	0	0
5	【情報管理】児童や保護者・家庭環境などに関する各種の情報の取扱について細心の注意を払った。	3.89	41	5	0	0
6	【やりがいのある職場づくり】学校教育目標を基軸として、子どもの成長を願い、校務分掌等、任された仕事の充実に努めた。	3.59	27	19	0	0
7	【働きやすい職場環境】協働性・同僚性、または環境面などから本校は働きやすい職場環境だと感じる。	3.69	34	13	1	0
8	【教科指導の充実】学力向上のために教材研究に努め、明確な指示や発問の工夫などによるわかりやすい授業の展開に心がけるなど、授業改善に努めた。	3.47	18	17	1	0
9	【学習環境・学習規律の統一】長与南スタンダード(学習に関する共通理解・共通実践)を意識して、板書や机上の整理、ノートの取り方等、よい習慣が身につくように指導できた。	3.44	18	16	2	0
10	【学習環境・学習規律の統一】授業改善メソッドを意識したためあてやまとめ、振り返りの時間を位置づけ、本時の授業づくりを行うことができた。	3.34	14	19	2	0
11	【基礎学力の定着】ドリルやAIDリルの活用、ながよ検定テキストの計画・継続的な指導を通して、漢字、計算の習熟を図った。	3.46	14	13	1	0
12	【基礎学力の定着】家庭と連携して、主体的な家庭学習の充実に努めた。	3.38	12	16	1	0
13	【校内研究】校内研究の話し合いの中で、決まったことを実践し、研究全体の具現化に貢献するように努めた。	3.31	13	20	2	0
14	【国際理解】外国語科や外国語活動・総合的な学習の時間などを通して、ふるさと学習や英語に慣れ親しみながら、日本や外国への国際理解が深まるよう指導の改善や充実に努めた。	3.20	9	18	3	0
15	【道徳教育の充実】道徳の全体計画をもとにして、年間指導計画に沿って、週に1時間、心に響く道徳科の授業を展開することができた。	3.22	9	16	1	1
16	【いじめ0・いじめ防止対策】子供の生活の実態把握に努め、いじめ0に向けた日常的な取組を行った。	3.53	19	8	3	0
17	【不登校0】居心地のよい学級、学びがよい学級を創造し、不登校0に向けた日常的な取組を行った。	3.14	16	4	6	3
18	【あいさつ】学校や地域で顔を見て、元気な声であいさつができる子供の育成を図った。	3.48	22	24	0	0
19	【言葉遣い】日常生活や授業の中で、友達を思いやる言葉遣いについて考える場を設け、指導した。	3.65	29	13	1	0
20	【落ち着いた生活】落ち着いた学級・学校生活を創造するために、正しい廊下歩行や教室移動などの仕方について、指導を行った。	3.65	28	15	0	0

21	【勤労生産的な活動】共働・黙動による清掃活動を行い、美しい学校づくりにつながる心の指導を行った。	3.57	22	14	1	0
22	【基礎体力の向上】体育の授業における運動量を確保し、また外遊びを推奨し、子供たちの体力づくりを促した。	3.34	12	15	2	0
23	【健康教育の推進】「五ザル」や「ノーマディア」などの取組を通して、健康的な生活の充実に努めた。	3.42	15	17	1	0
24	【健康教育の推進】手洗いなど衛生に関する指導を通して健康教育の推進に努めた。	3.55	21	17	0	0
25	【食育の推進】給食時間や各教科の指導の中で、食育の推進に努めた。	3.66	23	12	0	0
26	【安全教育の推進】交通安全・不審者対応・防災などに関する指導を継続的に行った。	3.57	23	12	2	0
27	【安全教育の推進】教室環境や教材の保管など安全への配慮は適切に行った。	3.68	28	13	0	0
28	【安全教育の推進】「長与南小学校 生活のきまり」を子供たちが理解し、そのきまりを守った生活が送れるよう、継続的に指導を行うことができた。	3.66	23	12	0	0

(3) 「学校関係者評価」関係文書

1 評価者

- 学校運営協議会委員 (7名)
- ・ コミュニティー会長 (1名) ・ 見守りボランティア代表 (1名) ・ 自治会長 (2名)
- ・ 民生委員 (1名) ・ PTA会長 (1名) ・ 町教育委員会指導主事 (1名)

2 評価の方法

1月下旬に紙面で教職員による自己評価を説明した。その後、本校の自己評価の妥当性について御検討をいただき、評価者7名全員から紙面で御意見をいただくことができた。

【評価の結果】

- 児童や保護者アンケートの結果の分析に基づいた学校評価の方法は適切である。
- 学校評価の結果は妥当である。

1 豊かな心の育成 【評価3：妥当である7名】

- ・ 児童アンケート「学級にいじめはない(3.49)」保護者アンケート「いじめの未然防止(3.38)」と、突出して高くないが一定の成果あり。教職員側でも、「情報共有」「いじめの組織的対応」の分析は数値傾向と整合している。
- ・ 児童アンケートのいじめ項目の数値が気になる。
- ・ 先生方が日々取り組んでこられた成果と言える。一方で、児童アンケート「学級にいじめはない」で約12%が否定的な回答をしている。そう感じている子供は元気に挨拶をしたり授業で進んで質問したりする気持ちになれないのではないかと。子供からのメッセージとして受け止めて対応する必要があると考える。
- ・ 朝の挨拶は、こちらから言うとするが声が小さいと思う。
- ・ 挨拶の改善は家庭内の取組も。「五ざる」のようなわかりやすい指標があるとよい。

2 基礎学力の充実【評価3：妥当である7名】

- ・ 分析は客観的で課題をしっかりと認識しており、改善策も具体性がある。
- ・ 日頃から丁寧に指導していただきありがたい。勉強が苦手な子供が少しでも自信をもって学習に取り組めるよう引き続きよろしく願いたい。

3 健康安全教育の推進【評価3：妥当である7名】

- ・ 児童、保護者とも生活習慣や健康面は比較的高い評価と言える。「五ざる」の具体的取組や提出率まで言及しており分析が具体的である。
- ・ 登校時、以前に比べると速く歩くようになった。早く学校に行きたいと言う子供が多い。
- ・ 「五ざる」については、各家庭でも意識を高めて取り組んでいるようだ。今後も生活習慣改善にむけて継続してほしい。

4 特別支援教育の充実【評価3：妥当である7名】

- ・ 教職員アンケートではおおむね3.6程度で推移していて一定の体制が機能している。個別対応と組織対応の両面が整っていると見える。ただ、支援の成果が数値や受容として明確に示せないところがあり、成果の可視化は難しいようだ。

- ・日頃よりきめ細かな指導をしていただきありがたい。どの子供にとっても、多様な特性のある子供と関わりながら生活していくことは大切な学びであると思う。

5 国際化への対応【評価3：妥当である7名】

- ・ALT（外国語指導助手）の計画的活用は、学年に応じた外国語授業や日常的な取組で継続性が確認できている。
- ・ALTとの交流は、子供たちにとって貴重な体験となっているようだ。

6 教育環境の整備【評価3：妥当である7名】

- ・評価を過信せず、改善余地を認めている点は評価できる。
- ・児童アンケートにおいても、前期と比較して「そうじをまじめにやっている」の項目がやや下がっているようだ。整理整頓の大切さや掃除の意義について学校・家庭で共有し改善を図る必要がある。
- ・清掃に関して家庭で「片付け」の教育がされていない場合、学校での清掃活動は変化を生むきっかけになりそう。
- ・児童アンケート「そうじをまじめにやっている」で否定的な回答をした子供は正直で、自分を客観的に見ていると言える。掃除の仕方がわからないや周りがしないから自分もしないなど「なぜしないのか」に温かく注視していく必要があるのではないか。

7 教職員の資質向上【評価3：妥当である7名】

- ・教職員アンケートでは、研修授業関連が3.5程度。児童・保護者の授業評価と大きな乖離はないと言える。
- ・ICT（情報通信技術）活用や教職員研修の場づくりを今後の方向性とみているのは評価できる。
- ・家庭学習については、前期と比べて児童アンケートがやや下がっているようだ。授業での学びと家庭での学びがうまくつながるよう、学校と家庭の連携・情報共有が必要。

【全体的な気づき】

- ・学校運営の方向性が共有されている。何故なら児童・保護者・教職員の評価傾向がおおむね一致しているから。本校の教育活動は全体として安定しており、日常的な取組を確実に積み重ねている。一方で、各取組の成果を具体的に示し可視化することで質的向上につながるのではないかと思う。
- ・児童が教師の目を見て学んでほしい。タブレットなどに頼ってほしくない。
- ・学校評価アンケートに目標値があると評価の妥当性が明確になると感じた（個人的には「4」がついてもよいと思うので）。年度当初に設定すると、児童も保護者も意識して取り組めるのでは。
- ・読書に関する項目が児童アンケートだけなのが気になった。本校は読書活動にも積極的に取り組んでいるイメージがあるので、保護者・教職員アンケートに加えるとよい。

- ・挨拶について、学校・家庭・地域が協力して取り組む必要がある。子供たちが安心して生活できる町づくりに関わってくると思うので、引き続き一緒に改善していけたらと考える。
- ・1年間お疲れさまでした。先日、ありがとう集会に招待いただき出席しました。とても心温まる内容で子供たちの一生懸命な姿に感動しました。感謝する心がしっかりと育まれていることにとてもうれしく思いました。学力も大切ですが、他を思いやる（考える）心を育むことが一番大切と考えます。相手をリスペクトする心が広がるといじめも減ってくるのではと思います。

(4) いじめ問題に関する評価の実施状況

評価項目	評価観点等の内容	評価	分析及び改善策
1 日頃の児童生徒理解	・細やかな児童観察と児童の意識調査を継続し、一人一人が安心して学校生活を送ることができるように努める。	3	・担任の観察に加え、生活指導部会や同学年会で児童の生活実態を把握し、全児童対象のアンケートも実施。問題があると思われる児童には個別面談を行い、学校が安心できる場と感じられるよう努めた。次年度も調査を継続し、児童理解を深めていく。
2 未然防止や早期発見	・細やかな児童観察と児童の意識調査を継続し、いじめの実態把握に努め、児童が発する信号を見逃さないよう早期発見に努める。	3	・児童アンケートに加え、職員に協働を促し、日常生活の中でいじめの早期発見に努めた。その結果、いじめや交友関係に関する相談があり、初期対応に繋がった。今後も観察を強化し、家庭と連携して未然防止と早期発見に取り組む。
3 いじめへの迅速適切な対応	・いじめが生じた際、学校全体で迅速に対応できる体制を整備する。	3	・いじめが発覚した際は、担任や関係職員、必要に応じて管理職も加わり事実確認を実施。その後、児童と保護者に対応し、家庭と連携して指導を行い、解消まで継続して観察を続けた。
4 組織的な取組	・いじめが生じた際、学校全体で組織的に対応できる体制を整備する。	3	・管理職の指示のもとケース会議を開き対応。今年度は研修会でいじめ事例や対応経緯を全職員に共有し、学校全体での対応意識が高まった。今後も外部機関と連携し、組織的な対応体制を強化していく。
5 方針等の共有 (保護者・地域)	・いじめの対処方針や指導計画を明確にする。 ・方針や取組を保護者、地域と共有し、理解や協力を得る。	3	・「いじめ防止基本方針」を全職員で共有し、ホームページで公開して家庭や地域にも周知した。学校運営協議会では学校経営方針を説明し、地域へ協力を依頼。今後も理解と協力を得られるよう努めていく。
6 その他 (上記以外の項目あれば記入)			

※ 評価(4.3.2.1)